

特集

民放3局の 4K番組 コンテンツ制作

石川テレビ



漢字「石」から
発想した局ロゴ
「石川さん」

毎週土曜15分番組 『4Kで綴る映像詩 新ふるさと 人と人』 8月1日から放送開始

白山と手取川に抱かれた加賀の地、日本海の恵みがあふれる能登半島——豊かな自然と暮らす人々の営み、その地の生活習慣に根ざす祭りや芸能が伝わる石川県。独自の工芸文化が栄え、その技が受け継がれてきた。こうした故郷の原風景を記録しようと1979年から10年間にわたって『ふるさと 人と人』番組を450回にもわたって放送し、綴った映像詩は評判を呼んだ。

「平成となり、ICT技術の発達で地方や地域の独自の姿がかすみ、ふるさとの良さや暮らしぶりが見えなくなってきた。そこで改めて最新技術の4Kカメラで、ふるさとの自然や風土、人間模様などを描く」というねらいで、『4Kで綴る映像詩 新ふるさと 人と人』(新ふるさと 人と人)が8月1日から毎週土曜16時15分の15分番組としてスタートした。

(レポート・写真：吉井 勇・本誌編集長)



地デジ開始2006年当時から 脈々と続く独自の自社制作姿勢

石川テレビが地上デジタル放送を始めたころ、本誌は取材(掲載：2007年1月号)している。当時、ローカル局でハイビジョンの



「番組づくりに集中」を掲げる高羽国広代表取締役社長

番組を制作することは、技術面でもコスト面でも壁があると考えられていた。しかし、代表取締役社長の高羽国広氏は「テレビ局に働く皆は、人々の記憶に残る仕事をしたいという欲求を持っているはず。だからデジタル放送開局の記念特別番組としてハイビジョンドキュメンタリーを毎月1本、12回放送しよう。必要な予算は用意する」という大方針を出し、スタッフたちは地域を見直し、企画を考え、ロケハンに散って12本を制作したのである。「予算を気にせず、番組づくりに集中する」という番組制作主義に徹した取り組みは、他の局に何をすべきかを明示した。

この自社制作は、2008年4月7日から平日10時台に生放送する『石川さん情報 Live

リフレッシュ』というローカル番組となり、2012年4月17日には放送1,000回を達成。フジ系列局の大半が、この時間帯にフジテレビ制作『ノンストップ!』を放送する中、地域にこだわる姿勢は県内視聴者の支持を集めてきた。



5月に完成した新館「メディア館」